

ごあいさつ



取締役社長
CEO兼COO

石原 廣司

古河電工グループは
「地球に優しい企業」として
環境や社会への取り組みを積極的に展開し
「イノベーション」を目指します。

当社は、近年厳しい状況が続いており、その中で、創造的で世界に存在感がある企業を目指し、各種の施策を実施してまいりました。人員適正化、有利子負債の削減、グループ会社全体の仕組み構築による収益改善、原価低減や在庫削減などに取り組みました。改善の進捗と市況や景気の好転が相まって業績は着実に向上してまいりました。更に、ものづくり力、経営リスク管理力、新事業創出力、および顧客創造力などの強化に取り組んでまいります。社会的責任に答えることが、ますます企業に求められています。当社としても社会の一員として、環境活動や法令の遵守はもちろん、製品提供や社会への貢献などで責任をはたしてまいります。

環境活動につきましては、「地球に優しい企業」をスローガンにしています。「循環型社会」の実現に向け、当社と関連グループ各社が協調し、到達水準と時期を明瞭に設定して、環境負荷の低減や資源生産性の向上に継続して取り組みました。リスク管理の観点から、製品への含有化学物質管理や土壌汚染調査などを実施しました。

社会的責任をはたす目的で、コンプライアンス委員会を設置して、法令の遵守や行動の規範を社員に周知しています。遵法だけでなく、アスベスト対策など従業員の安全や健康の促進、地域社会への貢献などによるコミュニティからの信頼強化に取り組みました。特に労働時間管理に対しては、抜本的な意識改革を図り改善しました。

業績の改善を受け「守り」から「攻め」の経営に転ずることとし、技術の革新、営業・生産・マネジメントの改革など「イノベーション」を目指します。その中で、環境や社会への取り組みはお客様の信頼を得るために極めて重要であると思います。活動内容は環境報告書にて報告してまいりましたが、本年よりタイトルを「環境・社会報告書」と変更し、社会的責任の項目について充実させました。皆様には活動のご理解と、私どもへのご支援、ご協力を御願います。

古河電工グループの企業理念

【経営の基本方針】

- お客様を大切にすること
- 人を大切にし、活かすこと
- 創造力を活かし、新技術に挑戦すること

【ビジョン】

技術革新を志向し、創造的で
世界に存在感のある高収益会社になる

【経営の方針】

- スピード経営の実践
- 利益志向
- 新商品・市場機会の創出
- グローバル経営の発展的な展開
- 構造改革の継続的推進
- 連結経営の強化

【基本理念】

古河電工は地球環境の保全が社会の最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で環境に配慮して行動し、明るく豊かで、持続可能な発展のできる社会の実現に貢献する。

【行動指針】

- 企業活動が地球環境に与える影響を常に認識し、従業員全員で環境保全活動に取り組む。
- 環境法規制及び顧客その他の要求事項を遵守するとともに、自主的な基準を設定し、管理レベルを向上させる。
- 環境目的・環境目標を設定し、活動を計画的に実施することにより、環境保全の継続的な向上を図る。
- 研究・開発・設計の各段階から環境影響に配慮した製品の提供に努める。
- 購買・製造・流通・サービスなどの各段階において、省資源、省エネルギー、リサイクルの推進及び廃棄物、環境負荷物質の削減に取り組む。
- 環境監査を実施し、環境マネジメントシステムと環境保全活動を見直し、継続的改善を図る。
- 環境教育を通じて、全従業員の意識の向上を図るとともに、情報開示並びに社会とのコミュニケーションを促進し、積極的に地域活動に貢献する。

当社と関連グループ各社は「循環型社会」の実現に向けて、継続的な環境保全活動に取り組んでまいりました。また事業の継続的な発展を目指し、総合的原価低減活動を推進しています。これは製造原価の低減や品質の向上を、設備技術、資材調達、安全活動など生産活動に関連する活動と併せて総合的に行うものです。なかでも環境活動は社会や顧客の意識の高まりから、極めて重要であると認識しています。

新製品の開発にあたっては、環境調和型製品をECOLINKと名付け、収益向上と成長力発揮に向けて研究開発の柱としています。本年も、光ケーブル廃材を使用したリサイクルポピンを東京電力殿と共同開発しました。鉛フリーはんだ対応の高性能リフロー炉は、鉛フリー化を促進すると期待しています。また、ノンハロゲン電線についても、強度を大幅にアップさせることができ、採用の拡大によるハロゲンフリー化に寄与しています。今後とも「独創的で市場開拓型」の環境調和製品の開発を行います。

製造現場では継続して環境負荷の低減活動を行っています。特に収益に貢献するものとして、廃棄物処理費の削減に積極的に取り組んできました。分別と再利用用途の開拓、無駄の排除で廃棄物の絶対量を削減し、併せて有価処理を推進することで、処理費用を減らしてきました。2005年度は上記の成果と屑銅価格の高騰などで、初めて4千3百万円の黒字を達成しました。今後とも廃棄物、温暖化ガス排出量および化学物質の削減などに取り組めます。また、2005年はアスベストによる健康障害が話題になりましたが、当社においても製品への使用状況、従業員の健康調査、工場設備や建物への使用の有無などを緊急に調査し必要な対策を取っています。安全や環境に関しては、様々な課題が生じるリスクがありますので、感度を高めて活動してまいります。

2006年の報告書がまとまりましたので、ステークホルダーの皆様にはお読みいただき、忌憚りの無いご意見を聞かせていただき、相互理解を深めてまいりたいと思います。



環境担当役員
常務取締役 CPO

中野 耕作